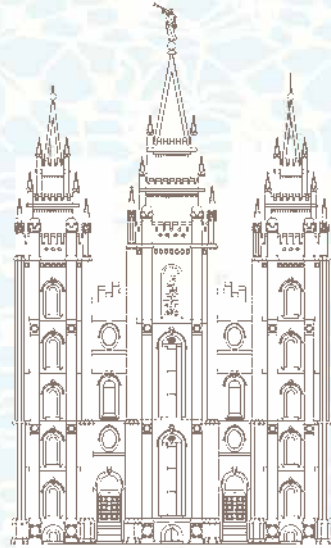


高い所から力を授けられ

神殿準備セミナー



教師用手引き

高い所から力を授けられ

神殿準備セミナー

教師用手引き

発行
末日聖徒イエス・キリスト教会
ユタ州ソルトレーク・シティー

© 1995, 2003 by Intellectual Reserve, Inc.

版權所有

第2版2003年

印刷：日本

英語版承認 - 2003年3月

翻譯承認 - 2003年3月

原題 - *Endowed from on High: Temple Preparation Seminar*
Japanese



目次

はじめに	iv
1. 神殿は偉大な救いの計画を教えてくれる	1
2. 神殿に参入するにはふさわしさが必要	6
3. 神殿の業は大きな祝福をもたらす	12
4. 神殿の儀式と聖約を受ける	15
5. 主は象徴によって教えられる	19
6. 聖なる神殿に参入する備え	24
7. 神殿参入の祝福を続けて受ける	28



はじめに

目 的

このコースの目的は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員が、神殿推薦状を受け、神殿に参入する備えをするのを助けることである。すでに神殿に参入したことのある会員でも、神殿についてよりいっそう知識を深める目的で、このコースを受講できる。

参加者

このコースに参加する人は、神殿参入を希望し、神殿推薦状を受けるにふさわしい人でなければならない。また神殿推薦状を持っていない人の場合は、推薦状を受ける準備をしていなければならない。

『福音の原則』をテキストとする日曜学校のクラスを受けたことのない人は、このコースを受講する前に受けておくことが望ましい。しかし、そうでなくても参加はできる。このコースを取る前に、福音の基本的な教義と原則をある程度理解し、純潔の律法、安息日きよを聖く守ること、知恵の言葉、そしてじょうぶん什分の一の律法など神の戒めを喜んで守る信仰を持っていなければならない。神殿の儀式を受けるには、ふさわしさと、個人的に義にかなった生活を送るよう努めることが求められる。

ビショップ/支部会長の指示の下で、ワード/支部評議会は、家族を強め、男性がメルキゼデク神権を受けられるよう努める一環として、どのようにこのコースを活用していくか話し合うとよい。

参加者は皆、このセミナーに出席するように、ワード/支部のビショップ/支部会長、あるいはほかのメルキゼデク神権指導者から個人的に招かれて出席する。

時間と場所

クラスの参加者数は場合によって異なるが、通常はワード/支部ごとに小人数で教える。場所は、集会所でも家庭でもよい。場所・時間・レッスンの頻度は、参加者と教師の都合に合わせて決める。

この教材は7つのレッスンに分かれている。教師は、参加者が各レッスンをよく理解できるよう、十分に時間を取るべきである。そのためには、一つのレッスンに一度以上の集会を要することがあるかもしれない。

教 材

教師は、参加者が聖文を利用できるように取り計らう。加えて、全員が小

冊子「聖なる神殿に参入する備え」(36793 300)を入手できるようにする。この小冊子は、セミナー参加者の副読本になっている。レッスンの中でしばしば引用されるし、参加者はセミナーの期間中にこれを読み通すように求められる。

教師

個人または夫婦をこのコースを教える教師として召すとよい。教師は福音に対する強い証を持ち、御霊の促しに敏感でなければならない。さらに、すでにエンダウメントを受けている会員で有効な神殿推薦状を所持しており、神殿で行われる事柄の重要性と神聖さを理解している人でなければならない。

参加者が自身の儀式を受けるために神殿に参入するとき、可能であれば教師は同行するべきである。

教師への提案

教会員は、神殿に参入するまでに、霊的な備えができていなければならない。そして、この備えの一部として、救いの計画と神殿の業に関連する教義を十分に理解していなければならない。あなたは、人々を人生で最も神聖な経験の一つに向けて備え、導くという特権を頂いている。参加者に最適な方法でレッスン教材を提示できるように、御霊の促しに敏感であるべきである。「御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない」という主の教えを忘れてはならない(教義と聖約42:14)。

最初のクラスの前に、この手引きを通読し、教材がどのように構成されているか理解しておく。十分余裕をもってレッスンを準備し、概念を理解して、よく提示できるようにする。レッスンを教えているときは、参加者が概念をよく理解しているか確認してから次に進む。レッスンを性急に教えてはならない。忍耐強く、参加者がメッセージをよく考え、それに反応する時間を与えるようにする。

各レッスンの前とレッスン中にも、いつでも生徒が質問したり、話し合ったりできるように機会を与える。学んだ原則を生活の場に応用できるように助ける。聖文、末日の預言者たちの教え、そして主の御霊の導きによって質問に答える。

このコースを教えている間ずっと、神殿の儀式が持つ神聖な性質を心に留める。次の引用でも説明されているように、神殿の業の中には神殿外で話し合ってはならない事柄もある。

「わたしたちは神殿の儀式について、神殿外では話しません。そう言いますと、神殿の儀式に関連する事柄はその恵みに浴するに足る、選ばれた少数の人々だけが学び得るものであって、そのほかの人々は決して学べないと思われがちですが、実際はまったくその逆です。わたしたちはだれもが神殿へ参入する資格を持ち、神殿に参入する準備をするようにと、大きな力を傾けています。……

神殿で行われる儀式は、単純明解なものです。また、美しく神聖なものです。そして、準備のできていない人々に施すことがないよう、秘密にされています。」（『聖なる神殿に参入する備え』2）

神殿に関する自分自身の証を強めるように努力し、教えている原則が真理であることをしばしば証する。さらに、適当なときに生徒たちにも証を述べる機会を提供する。

神殿活動がいかに重要なものであるかを常に覚えておく。ボイド・K・パッカー長老はこう言っている。「儀式や聖約は、わたしたちが神のもとに行くための資格証明書になります。ふさわしくなってそれを受けることは、生涯の目標であり、最後までそれを守ることは、この世におけるチャレンジです。」（『聖徒の道』1987年7月号， 25）



神殿は偉大な救いの計画を教えてくれる

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。」(ヨハネ 17:3)

目的

神殿で救いの計画が教えられることを生徒が理解できるように助ける。

準備

1. クラスの前に、救いの計画を表す未完成の図を、黒板かポスターに描いておく(3ページ参照)。(同じような未完成の図の紙を全員に配付し、話し合いを通じて各自で完成してもらってもよい。)
2. 各生徒が聖典を持っていることを確認する。小冊子『聖なる神殿に参入する備え』を全員に配る。これはセミナー用の教材の一部として事前に注文しておく。
3. レッソンの後半部分を手伝ってくれる人を数人、前もって割り当てておく。救いの計画の各部分(前世、堕落など)に提示されている参照聖句を割り当て、各聖句から救いの計画について分かることを要約してくるように言う。
4. 『教会ビデオ基礎編』(53779 300) が入手できるようであれば、そこに収録されている13分の短編「幸福の探求」を見せてもよい。

レッスンの提示

神殿は霊的な学校である

開会の祈りをしてもらう。

レッスン中に聖典を用いることを説明する。毎回クラスに聖典を持参するように勧める。

『聖なる神殿に参入する備え』の小冊子を全員に配り、このコースの生徒用副読本であることを説明する。毎回レッスンでこの小冊子の内容を話し合う。コースの開催期間中に一人一人がこの小冊子を読み通さなければならない。

レッスンを始めるに当たって、神殿が霊的な学校であり、人生の目的や救いの計画に対する理解を深めるのに役立つことを説明する。

次の引用文を読んでもらおう。これは神殿で学ぶ内容の一部に言及している。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は神殿についてこう述べている。「この神聖な建物は、神にかかわる崇高で神聖なことを学習する学びやともなります。ここでは愛に満ちた御父が、時代を問わずその息子娘のために定めてくださった計画について、その概略を学びます。また、前世からこの世の生涯を経て次の世に至る、人の永遠の旅路について、その壮大な行程が示されます。」

根底となる偉大な基本的真理が、それを聞くだれにでも理解できるよう、明確にまた簡潔に教えられます。」(「ソルトレーク神殿」「聖徒の道」1993年11月号, 6)

ブリガム・ヤング大管長は、エンダウメントと呼ばれる神殿の儀式が、永遠の命を得るために必要な指示を与えてくれると教えている。「エンダウメントとは、主の宮で必要なすべての儀式を受けることであり、あなたがたがこの世を去った後、御父のもとに帰れるようにするものである。」(*Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィッツオー選 [1954年], 416)

生徒にヨハネ17:3を読んでもらう。

• 人が得られる最も重要な種類の知識について、この聖句は何を教えているのでしょうか。

「そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」(アブラハム 3:25)

神殿では天の御父とイエス・キリストについて知識を深め、御二方にもっと近づけるようになることを説明する。わたしたちは天の御父とキリストが人のために用意された計画について学ぶ。この計画は、聖文の中では贖いの計画や救いの計画など、様々な名称で呼ばれている。

• 今までの皆さんの人生で、どのようなことが救いの計画を学ぼうえで役立ったのでしょうか。

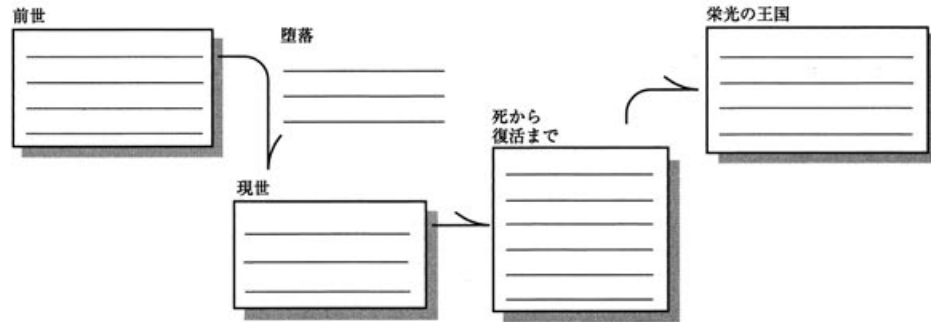
• 救いの計画を理解することで、皆さんの生活はどのような祝福を受けてきましたか。

神殿では救いの計画が教えられる

神殿のエンダウメントの一部として、救いの計画が教えられることを説明する。ここでは、これらの神殿の教えが理解できるように生徒たちを備えることになる。

黒板に描かれた未完成の図に注目してもらい、概念の理解を助けるために聖文を用いて、次の事柄を復習する。参照聖句について話し合いながら、図の適当な線の上に書き込む(5ページの完成図を参照)。生徒に図を配付してある場合は、その図に各自で参照聖句を書き込んでもらう。

生徒に教師の援助を割り当てていれば、ここで救いの計画について知っていることを話してもらおう。この話し合いでは、以下の質問に焦点を当てることを説明する。わたしたちはどこから来て、なぜこの地上にいるのか、この世を去るときはどこへ行くのか。



前世

1. わたしたちは、天の御父である神の霊の子供であり、地上に来るまで御父とともに住んでいた（ローマ8：16-17参照）。
2. 天の御父は天上で大会議を召集された（アブラハム3：22-23参照）。この会議において、御父はわたしたちの永遠の進歩と幸福のための計画を明らかにされた。それは救いの計画と呼ばれた。わたしたちは、この計画に従うことを選んだ。
3. この計画に従い、天の御父の長子であるイエス・キリストは、救い主になることを申し出られた（モーセ4：2；アブラハム3：27参照）。
4. 天の御父のもう一人の息子であるルシフェルは、御父の計画に背き、人の選択の自由を破壊しようとした。ルシフェルとルシフェルに従う霊は天から投げ落とされ、肉体を受け死すべき状態を経験する特権が与えられなかった。それからというもの、現在サタンとも呼ばれているルシフェルは、人類を悪に誘惑することによって自分と同じ惨めな境遇に陥れる試みを続けている（モーセ4：1, 3-4；2ニーファイ2：17-18参照）。

墮落

1. アダムとエバは、地上に来る天の御父の最初の子供として選ばれ、エデンの園に住まわせられた。そのときの二人の体は、死すべき体ではなかった（モーセ3：7-8, 21-23参照）。
2. アダムとエバは、神に禁じられた木の実を口にすることを選んだ。その結果、二人は神のみもとから断ち切られた。この別離を霊の死と呼ぶ。二人は死すべき状態となった。すなわち、いずれ肉体が死を迎えるのである。また、これによって彼らは子供をもうけることもできるようになった。死すべき状態への変化を墮落と呼ぶ（2ニーファイ2：19-25；教義と聖約29：40-41参照）。

現世

1. 前世で天の御父の計画に従うことを選んだ霊は、皆この地上に生まれて来ることによって肉体を得る。この死すべき状態の間に、わたしたちは御父が物理的に近くおられなくても、信仰によって生き、御父の戒めを守るこ

とができるかどうか試されるのである（アルマ34：32；アブラハム3：24-26参照）。

2. 死すべき状態では、人はだれでも神に従うかサタンに従うかを選ぶ自由がある（2ニーファイ2：27参照）。

死と復活

「わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。」（信仰簡条1：3）

1. 死ぬと、わたしたちの霊は霊界に行き、肉体は地上にとどまる。霊と肉体が分離したこの状態は、復活の時まで続く。義人の霊は、パラダイスと呼ばれる平安と幸福の状態に入る。悪人の霊は霊の獄と呼ばれる暗黒の状態に置かれる（アルマ40：9-14参照。1ペテロ3：19も参照）。
2. イエス・キリストの贖いと復活は、全人類が復活により肉体の死に打ち勝ち、復活できる道を与えてくれる。復活とは、霊と完全になった肉体が再び永遠に結びつくことである（1コリント15：22；2ニーファイ9：10-13；アルマ11：42-44参照）。
3. またイエス・キリストの贖いは、わたしたちが救われ、罪から清められて、神のもとに住む道を備えてくれた。救い主は、ゲツセマネの園と十字架上で、全人類の罪のために苦しまれた。このように主がわたしたちの罪を贖ってくださったからこそ、わたしたちは自らの罪を悔い改め、救しを受けることができる。わたしたちは福音に従った生活を送ることにより、永遠の命という賜物を受け取るふさわしさを身に付け、主のようになることができる（モーサヤ3：5-12参照）。

栄光の王国

人は、復活したときに、栄光の王国のいずれかに振り分けられる。義人は、神の戒めに従わなかった人たちよりも大きな喜びと祝福を受ける（1コリント15：35、40-42参照）。

1. 星の栄えは、イエス・キリストの福音も、イエスの証も、神の預言者も受け入れずに、罪深い生活を送る人々のためである（教義と聖約76：81-88、98-103参照）。
2. 月の栄えは、地上では高潔ではあったがだまされた人々、イエス・キリストの証に雄々しくない人々のためである（教義と聖約76：71-79参照）。
3. 日の栄えは、戒めを守って、儀式を受け、イエス・キリストへの信仰によりすべてに打ち勝って、心が清くされた人々のために取っておかれる（教義と聖約76：50-70参照）。

次の質問に答えてもらう。

- 救いの計画について、前には知らなかったことを何か学べたでしょうか。
- この偉大な計画におけるイエス・キリストの役割を考えると、どのような気持ちがしますか。
- この計画へのわたしたちの感謝の気持ちを、どのように天の御父とイエス・キリストに伝えることができるでしょうか。

救いの計画の中で救い主の贖いがどれほど重要かを強調するために、例に

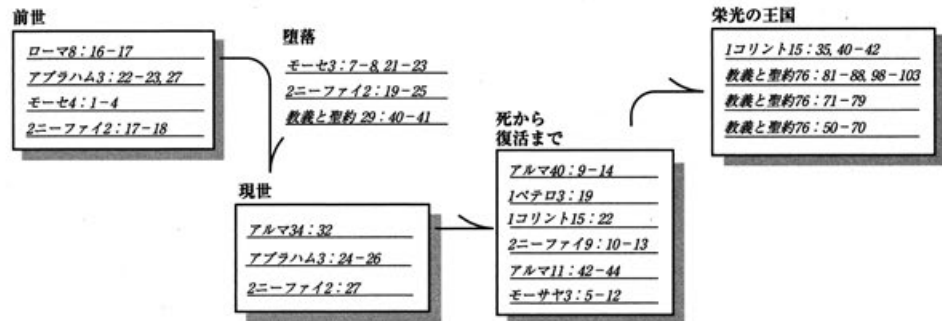
従^{なら}って、完成した図の下に信仰簡条1:3を書く。

まとめ

神殿がこの計画に関するわたしたちの知識を増し、その知識がわたしたちの生活に大きな祝福をもたらすことを強調する。救いの計画を知り福音の原則に従っていたために受けた祝福について、自分の証を述べる。

「幸福の探求」(訳注—『教会ビデオ基礎編』VHS [53779 300] に収録されている)のビデオを見せて終了してもよい。

閉会の祈りをしてもらう。



「わたしたちは、キリストの贖罪しよくがいにより、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。」(信仰簡条1:3)



神殿に参入するにはふさわしさが必要

「わたしは、神殿に参入するふさわしさをすべての教会員が身に付けるよう、心から願っています。……すべての成人会員がふさわしい生活をし、有効な神殿推薦状の発行を受け、所持できるように願っています。」(ハワード・W・ハンター 大管長)

目的

神殿参入にはふさわしさが必要であることを理解できるように助ける。

準備

1. 神殿推薦状を受ける過程について説明してくれるように、事前に余裕をもって、ビショップまたは支部会長に依頼しておく。これに関する参考資料は〔9-10〕ページの「神殿推薦状を受ける手続きは祝福である」の項にある。もしビショップまたは支部会長が出席できない場合は、顧問の一人に頼んで紹介してもらってもよい。
2. 以下の引用を黒板またはポスターに書く。「わたしはすべての教会員の方々に、主イエス・キリストの生涯と模範に……さらに注意を払って生活するようにお勧めします。」(「尊く、大いなる約束」『聖徒の道』1995年1月号、9)

レッスンの提示

開会の祈りをしてもらう。

質問があるかどうか生徒たちに尋ねる。御霊の導きに従い、必要なだけの時間を取ってできるかぎりすべての質問に答える。その際、神殿内で行われる事柄の中には神殿外で話し合ってはならない事柄もあることに留意する。

神殿に参入する人は、福音に従って生活し、戒めを守ることによって、天の御父とイエス・キリストへの信仰を表さなければならないことを説明する。道徳的な清さを保ち、什分の一を完納し、知恵の言葉を守り、安息日を聖く守るなど、すべてにおいて義にかなった生き方をするよう努力しなければならない。また、ビショップまたは支部会長と、ステーク会長または伝道部会長の面接を受けて、神殿推薦状を受けるにふさわしいと認められなければならない。このレッスンでは、ふさわしい状態で神殿に参入するために生徒たちが守らなければならない福音の原則と戒めを幾つか検討する。

道徳的な清さ

主と主の預言者たちが、道徳的な清さの重大さを繰り返し教えたことを説明する。ヒンクレー大管長は次のように教えている。「わたしたちは、婚前の純潔と、既婚後も完全な貞節を守るべきであると信じています。要約するとそういうこととなります。それは幸せな生活への道です。また喜びへの道でもあります。それは心に安らぎを、そして家庭に平安をもたらします。」

(「それは、片すみで行われたのではない」『聖徒の道』1997年1月号, 57)

次の聖文と一緒に読む。

教義と聖約42:22-24 (主は伴侶を愛し、ほかの人を求めてはならないと命じられた。また、主は姦淫^{かんいん}をしてはならないと命じられた。)

教義と聖約121:45 (主はわたしたちに、「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい」と命じられた。)

1テモテ4:12 (わたしたちは純潔の模範とならなければならない。)

1ニーファイ10:21 (清くない者は神と住むことができない。)

信仰箇条1:13 (わたしたちは純潔と徳高くあるべきことを信じる。)

- 主は、どうしてこれほど道徳的な清さを強調なさるのでしょうか。
- 周りの世の中では、不道徳がどのような結果を生じているのでしょうか。道徳的に清い生活を送ることで、どのような祝福が得られるのでしょうか。

黒板またはポスターに書いた引用に生徒の注意を向ける (本課の「準備」の項参照)。

- わたしたちとわたしたちの子供がこの世の誘惑に対抗し、道徳的に清い生活を送るうえでこの助言はどのように役立つでしょうか。

什分の一

教義と聖約119:4を読んでもらう。

大管長会は正しい什分の一について次のように説明していることを指摘する。「わたしたちの知るかぎり、什分の一に関する最も簡潔な言葉は主御自身の言葉です。主は、教会員に『毎年彼らの得る全利益の10分の1』を納めるべきであると教えておられます。これは収入を意味すると理解されています。」(大管長会からの手紙、1970年3月19日付) 什分の一基金は、集会所や神殿の建設、伝道活動の支援、そして地上に神の王国を建設するために用いられる。

ジェームズ・E・ファウスト管長の次の言葉を紹介する。

「什分の一は貧富を問わず、世界中に住む各教会員の幸福と豊かさの土台となる基本原則です。什分の一は犠牲の原則であり、天の窓を開く鍵です。……什分の一を納めなくても会員資格は失いませんが、それにかかわる祝福は失います。」(「天の窓を開く」『リアホナ』1999年1月号, 63)

生徒とともに、以下の聖句を検討する。

レビ27:30 (什分の一は主のものであって、主にとって聖い。)

マラキ3:8-11 (什分の一を納めなければ、主から盗んでいるのである。主は、什分の一を納める人を豊かに祝福される。)

- 什分の一を納めて、どのような祝福を受けましたか。
- 什分の一を納めないと、どうして神から盗むことになると思いますか (教義と聖約104:14参照)。

教会員は全員、ビショップまたは支部会長と毎年什分の一の面接をし、什分の一の完納者かどうかを申告するように求められることを説明する。この面接は、会員にとってこの大切な戒めをどれほどよく守っているか自己診断する機会になる。

知恵の言葉

主は神殿参入の前に、霊と肉体の両面でわたしたちの生活を、汚し、不健康にする習慣を捨てるよう望んでいらっしゃることを説明する。

次の聖句の中から必要なところをすべて読む。

1コリント3：16-17（わたしたちの肉体は神の宮であり、汚してはならない。）

教義と聖約89章（この啓示は知恵の言葉として知られている。1-9節は体内に取り入れてはならない物、10-17節は体に益になる物を教え、そして18-21節には戒めを守る人たちへの主の約束が記されている。）

- 現在の世の中で、知恵の言葉にある戒めを破るよう影響を与えるものに、何があるでしょうか。
- 自分や子供たちが主の健康の律法を守れるようにするには、どうしたらよいでしょうか。

教義と聖約29：34を読んでもらう。

- 知恵の言葉への従順は霊的、肉体的にどのような点で祝福になると思いますか。
- これらの戒めを守って受ける「知識の大いなる宝」には（教義と聖約89：19）、どのようなものがありますか。

ボイド・K・パッカー長老の次の言葉を紹介する。

「皆さんが霊的に何を学ぶかは、ある程度、自分の肉体をどう扱うかにかかってきます。だからこそ知恵の言葉が非常に大切なのです。

啓示によって禁じられている習慣性のある物質、つまり、茶、コーヒー、酒、たばこなどは、ほかの中毒性のある薬物と同じように、天との霊的なコミュニケーションに要する繊細な感覚を鈍らせてしまいます。

知恵の言葉をないがしろにしないでください。この戒めを守る人々に約束された『知識の大いなる宝、すなわち隠された宝』を受ける機会を、そのような態度のために失うかもしれないからです。知恵の言葉を守れば、肉体の健康にも恵まれます。」（「個人の啓示——賜、試し、約束」『聖徒の道』1995年1月号、66）

安息日

出エジプト20：8-11を一緒に読む。

主の民は、いつの時代にも安息日を聖く守るように命じられてきたことを説明する。主はこの戒めを守る人たちに大いなる祝福を約束された。

教義と聖約59：9-13を読んでもらう。

- 安息日を聖く守るおもな理由として、主は何を挙げられたでしょうか。
- 安息日を遵守するうえで教義と聖約59：9-13はどのような導きを与えてくれるでしょうか。
- 安息日を正しく遵守する人々に約束されている祝福にはどのようなものがあるでしょうか。

この話し合いの一部として、ジェームズ・E・ファウスト長老の教えた以下

の原則を紹介する。

「主はなぜ安息日を守るように命じておられるのでしょうか。その理由は少なくとも3つあります。まず肉体の休息のためです。……

わたしの考える2番目の理由は、それよりもはるかに重要です。わたしたちは霊性を新たにし、強める必要があるのです。……

3番目の理由は最も大切です。それは戒めを守ることによって、神に愛を示すことにほかなりません。救い主を愛しているというだけで、ほかに理由もなく戒めを守る人は幸いです。」（「主の日」『聖徒の道』1992年1月号、39）

• 安息日を聖く守ることによってどのような祝福があなたの生活にもたらされましたか。

今日話し合った戒めに従った生活を送る決意をするように、生徒たちに言う。すなわち、道徳的な清さ、什分の一、知恵の言葉、そして安息日を守ることである。そうすれば、神殿参入により良く備え、ますます豊かに主の祝福を受けるようになる。

神殿推薦状を受ける手続きは祝福である

会員は神殿に行けるようになる前に、一人一人が神殿推薦状を受けるにふさわしいと認められなければならないことを説明する。次の引用に述べられているように、この推薦状を受ける手続きは、一人一人の人生にとって恐らく祝福になる。

「ビショップは個人的なふさわしさについて質問する責任があります。教会員にとって、この面接を受けることはとても大切です。なぜなら、それは聖任された主の僕とともに、皆さんの人生の行程について考える機会だからです。皆さんの人生の行程に何か間違ったことがあれば、ビショップはそれを正す手助けをしてくれるでしょう。こうして皆さんはイスラエルの一般判士の助言を受け、自らの信条を表明し、主の承認を得て神殿に参入するため、ふさわしい状態になれるよう助けを受けることができます。」（『聖なる神殿に参入する備え』3）

初めて神殿推薦状の発行を希望する人たち、ならびに神殿結婚を計画している人たちには、ビショップまたは支部会長、ステーク会長または伝道部会長が面接を行うことを説明する。推薦状の更新の場合、ビショップリック、およびステーク会長会の顧問も面接できる。

ここで、ビショップか支部会長または顧問の一人に神殿推薦状について説明してもらう。説明する人は、複数の人々を前にして実際の面接時の質問そのものを読んではいならない。しかし、神殿推薦状の面接がどんなものなのかという概念を伝えるのは差し支えない。以下の言葉を参考にしてもよい。

神殿推薦状の発行を希望する会員は、天の御父と主イエス・キリストと聖霊について証を持っていなければならない。また、主の預言者とほかの中央幹部、地元の教会指導者を支持していなければならない。教会から背教して、福音に反した教えを宣べ、行動する団体や個人に同調したり、加わったりしてはならない。

「わたしは、……すべての教会員の方々に、主の神殿を、教会員であることの崇高な象徴とし、最も聖なる聖約を交わす至高の場所として確立するようにお勧めします。」（ハワード・W・ハンター大管長）

推薦状の発行を希望する人々は、^{せいさん}聖餐会、神権会、そのほかの教会の集會に忠実に出席していなければならない。そして、神権の権能の下に与えられた召しを良心的に果たしていなければならない。さらに、什分の一を完全に納める、言葉と行いにおいて正直である、お茶、コーヒー、アルコール、たばこなどの有害で習慣性のある物質を取らないなど、主の戒めをすべて守るように努力していなければならない。

また、清く徳高い生活を送り、主の貞潔の律法を守っていなければならない。この律法では、法的に正しく結婚している配偶者以外の何者とも性的な関係を持つことを禁じている。家族との関係において、靈的にも肉体的にも、福音の原則と一致した生活を送っていなければならない。人に靈的、肉体的、精神的あるいは情緒的虐待を行ってはいならない。

進んで罪を告白し、その罪を捨てなければならない。道徳的な罪、家族の虐待、背教したグループや慣行への参加、あるいは深刻な法律違反などの重大な罪は、神殿推薦状の面接を受ける前の時点でビショップまたは支部会長に告白されなければならない。もし、すべての人に与えられているキリストの光、つまり良心に照らして、ある問題をビショップと話すべきかどうか迷うようなら、恐らくビショップまたは支部会長と話すべきだろう。

離婚経験のある人たちは、神殿推薦状の発行を受ける前にビショップ、支部会長とステーク会長、伝道部会長から許可を受けなければならない。経済的な責任を遅滞なく果たすことも含め、離婚後も裁判所の裁定事項を常に守っていなければならない。

神殿推薦状の発行を願ひ出る会員はビショップリックの一員または支部会長との面接後、ステーク会長会の一員または伝道部会長と面接を受けなければならない。このような手続きが必要であることについて疑問を抱く人もいるかもしれない。神殿推薦状の発行を願ひ出るといのは、とりもなおさず主に神殿参入の許可を求めることである。つまり、わたしたちは、主の権能を持つ僕である二人の証人の前で、自らのふさわしさを証明する特権を頂いているのである。主の僕の前で聖なる神殿に参入するふさわしさを確認できるのは、わたしたちにとって祝福である。

まとめ

神殿に参入するのにふさわしくなることと、有効な推薦状を常に携帯することの大切さを強調するために、以下のハワード・W・ハンター大管長の言葉を検討する。

「わたしは、……すべての教会員の方々に、主の神殿を、教会員であることの崇高な象徴とし、最も聖なる聖約を交わす至高の場所として確立するようにお勧めいたします。……わたしも、神殿に参入するふさわしさをすべての教会員が身に付けるよう、心から願っています。また、神殿が近くにないために、すぐにあるいは頻繁に参入できないとしても、すべての成人会員がふさわしい生活をし、有効な神殿推薦状の発行を受け、所持できるように願っています。」（「教会員の大なる象徴」『聖徒の道』1994年11月号、3、6）

神殿参入にふさわしい状態を保って生活するときに得られる祝福について、
自分の証を述べる。

閉会の祈りをしてもらおう。



神殿の業は大きな祝福をもたらす

「聖なる御父よ、何とぞ、あなたの僕たちがこの宮からあなたの力を帯びて出て行けますように。あなたの御名が彼らのうえにあり、あなたの栄光が彼らの周りにあり……ますように。」（教義の聖約 109：22）

目的

ふさわしい状態で神殿に参入する人は主から大きな祝福を受けることを、生徒が理解できるように助ける。

準備

1. このレッスンで使われる聖文を注意深く読んで、聖文について話し合う準備をしておく。
2. 生徒たちと、神殿の業について歌った賛美歌「いとまされる」（『賛美歌』158番）や、真理の永遠性について歌った賛美歌「真理は何と言えよ」（『賛美歌』175番）を歌う準備をしてもよい。
3. 『家庭の夕べ——ビデオ補助教材（国際版）』（53736 300）が入手できるのであれば、その中の「神殿は永遠の聖約のためにある」（6分）を見せてもよい。

レッスンの提案

開会の祈りをしてもらう。

質問があるかどうか生徒たちに尋ねる。主の御霊の導きに従い、必要なだけの時間を取って、できるかぎりすべての質問に答える。神殿の業の中には神殿外で話し合ってはならない事柄もあることに留意する。

神殿活動は古代からあった

導入として、一緒に神殿の業について歌った賛美歌、あるいは真理の永遠性について歌った賛美歌を歌ってもよい。

主はいつの時代にも主の民に神殿を建設するよう命じてこられたことを説明する。主は神殿で行うべき業について明らかにされた。

- 聖文にはどのような神殿あるいは幕屋が出てくるでしょうか。

『聖句ガイド』を利用して、神殿と幕屋の参照聖句を探してもらう。生徒たちの答えを黒板に書き出してもよい。また、生徒たちに以下の聖句を確認してもらうのもよい。

モーセの幕屋——出エジプト40：1-2, 34-38

ソロモンの神殿——歴代下3：1-2；5：1

ヘロデの神殿——マタイ21：12-15

ニーファイの神殿——2ニーファイ5：16；モーサヤ1：18；3ニーファイ11：1

上記の神殿は結局背教のために本来の目的を失い、破壊されるに至ったこと

を説明する。けれども、預言者ジョセフ・スミスを通して現代に神殿活動が完全に回復され、わたしたちの生活に大きな祝福をもたらしている。

ブルース・R・マッコンキー長老はこう言っている。「靈感によって神殿が建てられ、正しく用いられているのは、主の業の神聖さを示す偉大な証拠の一つである。……神殿があり、儀式を執行する人々のうえに啓示の霊が注がれているなら、そこには主の民がいる。もしそれらが存在しないなら、王国と天の真理も存在しない。」(Mormon Doctrine, 第2版 [1966年], 781)

神殿にふさわしく参入する人たちには、大いなる祝福が約束されている

主の宮である神殿は、日の栄えの王国で昇栄に備えるために行く所である。そこでは、天の御父やイエス・キリストについてよりいっそう学ぶことができる。また、わたしたちは御二方と聖約を交わし、御二方はわたしたちにすばらしい祝福を約束される。

教義と聖約の中で、主は、神殿に参入して、そこで交わした聖約にふさわしく生活する人々に与えられる祝福の幾つかを挙げられた。この祝福の一部は、第109章のカートランド神殿の奉献の祈りの中に記されている。この祈りの言葉は、啓示によってジョセフ・スミスに与えられた。

ハワード・W・ハンター大管長は、この祈りが「今もなお、個人、家族、一個の民として、わたしたちのうえに成就し続けています。神殿において行使する神権を、主より授けられているからです」と語った(『教会員の大きな象徴』『聖徒の道』1994年11月, 5)。

ハワード・W・ハンター大管長は次いで第109章から聖句を引用している。生徒たちに、次の聖句を読んでもらう。教義と聖約109:10-12, 22-23, 59, 67, 72, 75。主の言われている祝福を探すように言う。

読んだ後で、気づいた祝福を挙げてもらう。それを黒板に書く。次のような祝福が挙げられるかもしれない。

1. 主の栄光が主の民のうえにとどまる。
2. 主の僕は、主の力と御名と栄光を帯びて神殿を出て行く。そして、天使たちが彼らに対する務めを果たす。
3. 主の僕は、神殿から地の果てまで福音の真理を携えて行く。
4. 主の民を集合させるためにステークが組織される。
5. 散らされたイスラエルの民が真理を知って喜ぶ。
6. 聖徒たちの家族と、病気の人や苦しんでいる人も、主の前に覚えられる。
7. 主の王国が全地に満ちる。
8. 主の僕は、いつの日か主にまみえるために引き上げられ、永遠に主とともにいるようになる。

•このようすばらしい祝福が、ふさわしい状態で神殿に参入し、聖約を尊ぶ人々に約束されていることについて、どのように感じますか。

ハワード・W・ハンター大管長は次のように言っている。「このように胸躍るすばらしい約束を受けた民がいるでしょうか。主がその弟子たちに、御自身の示された模範と神殿に心を向けるよう望んでおいでになることには何の

「まことにまた、わたしはそこにいる。わたしはそこに来るからである。そして、そこに入って来る心の清い者は皆、神を見るであろう。」(教義と聖約97:16)

不思議ありません。」(「教会員の大きいなる象徴」『聖徒の道』1994年11月号, 5)

主は、教義と聖約第97章でも神殿に関する約束をしておられる。教義と聖約97:15-21を読んでもらう。

- 15-17節は、主の民が神殿で主の祝福を授かる資格を得るために何をしなければならぬと教えていますか(心を清くして、神殿に汚れたものを入れない)。

心の清い人々はシオンと呼ばれることを説明する。15-21節は、わたしたちがふさわしい状態で神殿に参入し、悪に汚されずに心を清く保つ努力をすることによって、シオンの建設を援助できると教えている。

- シオンと呼ばれるのにふさわしい人々に、この聖句はどのような祝福を約束していますか。

古代にシオンという名の町があったことを説明する。この町は、預言者エノクとその民が築いた。そして、民の義のゆえに天に取り上げられた(教義と聖約38:4; モーセ7:18-21, 69参照)。

シオンは末日にも存在する。信仰箇条第10条で、主はアメリカ大陸にシオンという名の町を築くことを約束された。生徒たちに、この信仰箇条を読んでもらう。散らされたイスラエルの民が、この大きいなる町に集められることを説明する(教義と聖約103:11-13参照)。

現在教会員は、聖なる神殿に参入するのにふさわしくなり、世界中の、現在住んでいる所にシオンを建設するように教えられている。わたしたちは自分の家を神殿のように、清く、愛があつて、個人の啓示が受けられる場所にしなければならない。

- もっと心を清くするために、どんなことができるでしょうか。
- この世で心を清く保つのが時々難しいことがあります。それはどのようなときですか。
- 自分の家族、支部やワードの人々の心が清くなるために、どのような助けができるでしょうか。

神殿の聖約を交わして守り、心の清い者になろうと生涯努める人は、シオンの建設に貢献できることを説明する。

まとめ

ふさわしい状態で神殿に参入する人々は、シオンの民になるという祝福も含め、主の大きいなる祝福を授かることを証する。わたしたちは、このような祝福にふさわしくなり、心が清くなるように全力を尽くさなければならない。

「神殿は永遠の聖約のためにある」を『家庭の夕べ——ビデオ補助教材(国際版)』(53736 300) から見るとよい。

閉会の祈りをしてもらう。



神殿の儀式と聖約を受ける

「また、神権の儀式と権能がなくては、肉体を持つ人間に神性の力は現れない。」
(教義と聖約84：21)

目的

生徒たちが、神殿の儀式と聖約の大切さを理解できるように助ける。

準備

1. 可能であれば、ビデオ『永遠の家族』(54411 090 多言語版DVD)を見せてもよい。上映時間はおよそ27分である(訳注—現在、『永遠の家族』は『福音のメッセージ』VHS [53196 300]の中にも収録されている。また単品としては、手話入り『永遠の家族』VHS [86253 300]が入手可能である)。
2. 生徒たちに『賛美歌』74番「さらにきよくみたまなお努めん」を歌ってもらうよう準備をしてもよい。

レッスンの提示

開会の祈りをしてもらう。

質問があるかどうか生徒たちに尋ねる。御霊の導きに従い、必要なだけの時間を取ってできるかぎりすべての質問に答える。神殿の業の中には神殿外で話し合ってはならない事柄もあることに留意する。

神殿では儀式を受け、聖約を交わす

神殿では、神の前に戻ることを可能にする儀式を受ける。また、福音の律法に従って生活することを聖約する。以下の資料は、儀式ならびに聖約一般、特に神殿の儀式と聖約について解説するものである。

儀式

儀式とは霊的な意義と効力を持つ神聖な式である。

教会の儀式の幾つかを挙げてもらう。(子供の命名と祝福、バプテスマ、確認、聖餐、神権の聖任、それに神殿の儀式が答えに挙がるかもしれない。)

神権の力によって執行される儀式は、わたしたちが昇栄するために必要不可欠なものである。この点を説明する。また、神の力を頂いて生活ができるのは、これらの儀式のおかげである。

教義と聖約84：19-21を読んでもらう。

•わたしたちの生活に神性の力が現れるには、何が必要でしょうか(メルキゼデク神権の儀式。この聖句にある「大神権」とは、メルキゼデク神権のことである)。

「わたしたちは……この地上における神の王国のために時間とお金と才能を、そして自分自身と自分の持てる一切のものをささげると聖約します。」（『聖なる神殿に参入する備え』35）

『聖なる神殿に参入する備え』29ページを開いてもらう。生徒の一人に次の引用を声に出して読んでもらう。

「教会員であるわたしたちにとって、このような儀式はなぜ大切なのでしょう。〔これら〕の儀式なくして、幸福になれますか。贖^{あがな}いを受けられますか、また昇栄できますか。答えはこうです——これらの諸儀式は好ましいとか、勧められるとか言うたぐいのものではありません。それどころか必要性を超えた、わたしたちの存在を左右する重大なものです。」

聖約

以下の事柄を説明する。聖約とは、神と、ある個人またはある民との間に結ばれる、神聖な取り決めである。神は特定の条件を定められ、わたしたちがその条件に従えば祝福を与えると約束された。聖約を守らなければ、祝福を受けることはできず、ある場合には不従順の結果としての罰を受ける。神権による救いの儀式には常に聖約が伴う。

- 今まで皆さんは、主とどのような聖約を交わしましたか（生徒たちは、バプテスマの聖約を挙げるかもしれない。バプテスマの聖約は、毎週聖餐を受けるときに更新される）。

- バプテスマを受けるとき、わたしたちはどのような聖約をしますか（モーサヤ18：8-10；教義と聖約20：37参照）。

以下のことを強調する。主と聖約を交わすときに、わたしたちは神に仕えたいという望みを表し、わたしたちに求められることには何でも喜んで従うという意思表示をする。それにこたえて、神は数々のすばらしい祝福を約束してくださる。永遠の命に向かって進歩するには、聖約を交わし、それを守らなければならない。

神殿の儀式と聖約

神殿の儀式には、エンダウメントと結び固め（神殿結婚と親子の結び固め）があり、ともに生者のためにも死者のためにも執行されることを説明する。死者のためのバプテスマの儀式は、ほかの神権の儀式と同様に神殿内で執り行われる。神殿の儀式で、わたしたちは神に自らをささげ地上における神の王国の建設を助けるという厳粛な聖約を結ぶ。

ジェームズ・E・タルメージ長老は、エンダウメントの中で交わす聖約について次のように語っている。

「エンダウメントの儀式では、各人が以下のような義務を引き受けなければならない。すなわち、徳と貞操の律法を厳密に守り、寛容で情け深く、清らかな心を持つことを聖約し、約束する。さらに、真理を広め、人々の精神を高揚させるために才能と財産とをささげ、真理のために身をささげ、地球にその王である主イエス・キリストを迎える準備をさせる業に貢献するためにあらゆる努力を払うことを聖約し、約束する。各々の聖約を交わし、義務を引き受けると、祝福の約束が宣言される。そして、この約束が成就されるには、その条件を忠実に守らなければならない。」（*The House of the Lord*, 改

訂版〔1976年〕, 84)

上に挙げられた聖約を黒板に書き出すのもよい。わたしたちが聖約を結ぶのは、義にかなった清い人間になるためであり、同時に主の王国の建設にすべてをささげるためだということを強調する。以下の引用を読む。

「わたしたちは聖約の民です。ですから、この地上における神の王国のために時間とお金と才能を、そして自分自身と自分の持てる一切のものをささげると聖約します。」(『聖なる神殿に参入する備え』35)

- どのようにしたら「自分の持てる一切のもの」を神の王国のためにささげることができるでしょうか。
- 教員が主の王国の建設に一切のものをささげるうえで、つまずきの石となるかもしれないものに、どのようなものがあるでしょうか。

ここで、神殿で聖約を^{あかし}交わし、それを守っているために頂いた祝福について、あなた自身の証を伝えるとよい。あるいは、エンダウメントを受けた別の人に、証をするように頼んでもよい。

神殿で交わした聖約に忠実でなければならない

主が「多くを与えられた者からは多く求められ」と言われたことを説明する(ルカ12:48)。

- この聖句は、神殿で交わす聖約とどのような関連があるのでしょうか。

主が神殿の儀式と聖約を与えてくださったのは、神の子供たちがこの世の目的を理解して、永遠の命という栄光に満ちた祝福を受ける備えをするためであると説明する。このような祝福を頂くとき、わたしたちには増し加えられた知識と機会にふさわしい生活を送る責任が生じる。神殿で交わす聖約には忠実でなければならないことを強調する。

- 神殿で交わす聖約に忠実であることは、なぜそんなに大切なのでしょうか。教義と聖約82:10を読んでみましょう。

「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」(教義と聖約82:10)

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように言っている。「あなたがたが聖約を守らないかぎり、主は聖約を守る責務を負われないと、わたしははっきり申し上げたい。主が聖約を破られることは決してない。それがだれであれ、主はわたしたちの一人と交わされた聖約を破られることは決してない。聖約が破られるとするなら、破るのはわたしたちである。聖約が破られると主は祝福を与える義務を負われぬ。わたしたちは祝福を得ないであろう。」(『救いの教義』ブルース・R・マッコンキー編、全3巻第2巻、236, 237)

聖約に忠実であれば平安と安全を得る

神殿は、混乱に満ちた世の中で平安を得られる場所であり、避難所であることを説明する。定期的に神殿に参入し、聖約を忠実に守ることによって、平安と安全を見だし、人生の指針を得ることができる。

ニール・A・マックスウェル長老は「聖約を守れば、わたしたちは聖約によって霊的に守られるのです」と言っている(『聖徒の道』1987年7月号, 78)。

• 今まで交わした聖約によって、霊的に守られたと感じたことがありましたか。それはどんなときでしたか。

わたしたちは神殿で、天の御父とイエス・キリストのもとに戻るのにふさわしい状態で生活するという聖約を結ぶことを指摘する。しかし、日々の努力の中で、時にはそのような生活が可能だろうかとの疑問に思うかもしれない。

1ニーファイ17：3、13節を読んでもらう。

• この聖句では、主のもとに戻ろうと努力するわたしたちを、主がどのように助けてくださると教えているのでしょうか。あなたの生活の中で、この聖句の約束が成就したのは、どんなときでしたか。

ボイド・K・パッカー長老は次のように語っている。「神殿に参入してエンダウメントを受け、聖壇にひざまずいて結び固められても、あなたは普通の生活をする普通の人間なのです。つまり、誘惑と闘い、過ちを犯して悔い改め、また過ちを犯しては悔い改めるということを繰り返しながらも、常に聖約を守る決意を心に固く持っているという生活です。……そうすれば、あるとき、「よくやった。あなたはわずかなものにも忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ」(マタイ25：21) という宣言を受ける日が、きっとやって来るでしょう。」(*Let Not Your Heart Be Troubled* [1991年], 257)

ハワード・W・ハンター大管長は、「神殿での礼拝に伴う祝福を自分自身で受けるために、また奉獻された壁の内側で授けられる聖めと安らぎを受けるために」神殿にしばしば参入するように勧めている。「神殿は美しい場所であり、啓示を授かる場所であり、平安の宿る場所です。そこは主の宮であり、聖きを主にささげる場所です。同時に、わたしたち自身にとっても聖なる場所であればなりません。」(「教会員の大きいなる象徴」『聖徒の道』1994年11月号, 6)

まとめ

神殿の儀式を受けて天の御父と聖約を交わすという祝福について、生徒に感想を尋ねる。

もし時間があり、ビデオ『永遠の家族』(54411 090 多言語版DVD)が手に入るようだったら、ここで見せるとよい(訳注—現在、『永遠の家族』は『福音のメッセージ』VHS [53196 300]の中にも収録されている。また単品としては、手話入り『永遠の家族』VHS [86253 300]が入手可能である)。

生徒たちに賛美歌から「さらに聖くなお努めん」を歌ってもらってもよい。教師は、神殿の儀式を受けることの祝福と、天の御父と聖約を交わす特権について自分の証を述べる。

閉会の祈りをしてもらう。



主は象徴によって教えられる

「わたしはここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を加えて、それを人の子らに与えよう。わたしの訓戒を聴〔く〕者は…幸いである。」
(2ニーファイ28：30)

目的

生徒たちが、神殿で使われる象徴を理解し、その価値を認められるように助ける。

準備

1. 国旗か、国旗の写真を持参する。
2. ある中央幹部が、神殿のガーメントについての質問にどのように答えたかを伝える物語を、生徒の一人にかいつまんで話すように依頼しておく。この話は、ボイド・K・パッカー長老著「聖なる神殿に参入する備え」の21、23ページにある。

教師へ——神殿の儀式や聖約は神聖なものであるから、これについて話すことはおもに神殿内に限られている。そのために、クラスでの話し合いは、この手引きにある説明に限定すべきである。

レッスンの提示

開会の祈りをしてもらおう。

質問があるかどうか生徒たちに尋ねる。御霊の導きに従い、必要なだけの時間を取ってできるかぎりすべての質問に答える。神殿で行われる儀式の中には神殿外で話し合ってはならない事柄もあることに留意する。

象徴は日常生活で大切なものである

わたしたちの日常生活の中では、象徴が絶え間なく使われている。黒板に以下の象徴を描く。ほかに適切な例があれば、それを描いてもよい。それぞれの意味を尋ねる。



国旗、あるいは国旗の写真を見せ、国旗にはどのような意味があるかを尋ねる。

•わたしたちは、ほかにどのようなものや行いを通じて愛国心を表すでしょうか（歌、制服、衣装、祭日、祝賀など）。

このようなものは、愛国心を表す象徴であることを指摘する。

- 愛や尊敬を表す象徴には、どのようなものがあるでしょうか（贈り物や指輪、キスや抱擁、ハート型）。
- 象徴は、だれにも同じメッセージを伝えるものでしょうか。伝えるとしたら、それはなぜですか。伝えないとしたら、なぜですか。
- わたしたちはなぜ象徴を用いるのでしょうか。

クラスで話し合いをしてもらう。次のような意見が出るかもしれない。

1. 象徴は、大切なことを覚えておく助けになる。
2. 象徴は、ほかの方法では学ぶのが難しい抽象的な真理を教えることができる。
3. 象徴は、感情を表現することができる。
4. 象徴は、個々の学習段階に応じて異なった原則を教えることができる。

象徴が繰り返し用いられることで、わたしたちの理解が深まることを説明する。

イエス・キリストとその預言者たちは象徴を用いた

救い主が、繰り返し象徴を用いて教えられたことを説明する。

- 主はどのようなときに象徴を用いて教えられたでしょうか。

迷える羊（マタイ18：12-14参照）、からし種（マタイ13：31-32参照）、高価な真珠（マタイ13：45-46参照）などが答えとして挙がるかもしれない。

- 救い主はなぜ象徴を用いて教えられたと思いますか。

話し合いをする。それから、以下の言葉を読む。

「偉大な教師である主は、絶えずたとえを用いて弟子たちを教えられました。少し分かりにくい事柄については、象徴を用いて話されました。主は、日常生活の中で、だれもが経験する物事を例にとられました。鶏、ひよこ、鳥、花、きつね、樹木、夜盗、追いはぎ、夕暮、金持ちと貧乏人……。からし種のことも真珠のことも話されました。主は聴き手によく教えたかったので、象徴という方法を用いて、簡単なことを語られました。神秘的なものも、あいまいなものもありません。すべてが象徴によって語られています。」（『聖なる神殿に参入する備え』 10）

預言者や使徒たちは、イエス・キリストやその贖いの犠牲について教えるのに、度々象徴を用いたことを説明する。イエス・キリストの贖いは、福音と、わたしたちが受けるすべての祝福の基本である。贖いによって救いが可能になる。聖文中の象徴が、ほとんど救い主とその犠牲に関して教えているのはそのためである。

モーセ6：63を読んでもらう。

- この地上ではどのようなものが救い主を証していますか。

アルマ13:16を読む。

- 神権の儀式は救い主のことをどのように証していますか。

救い主が贖いの業を成し遂げられる以前、主の聖約の民は、主の贖いの犠牲の象徴として、動物を犠牲としてささげていた（モーセ5：4-8参照）。この慣習は救い主の死と復活によって終止符を打った。今、主はわたしたちに、

「打ち砕かれた心と悔いる霊を、犠牲として〔主〕にささげ」るよう命じておられる（3ニーファイ9：20）。神権の儀式は、救い主の贖いの犠牲を、常に思い起こさせてくれる。ラッセル・M・ネルソン長老は次のように教えている。

「福音に必須の数々の儀式は贖いを象徴しています。水に沈めるバプテスマは、贖い主の死と埋葬と復活を象徴しています。聖餐^{せいさん}を取ることにより、バプテスマの聖約を新たにし、救い主の引き裂かれた体とわたしたちのために流された血を思い起こします。神殿の儀式は、主との和解を象徴し、家族を永遠に結び固めます。」（「贖い」『聖徒の道』1997年1月号、41）

霊的に敏感であれば、象徴は真理を教えてくれる

救い主が地上におられたときに弟子たちが、なぜたとえを使って教えられるのかを主に尋ねたことを説明する。たとえというのは、大切な真理を教える物語のことで、多くの場合象徴的な言葉で語られる。マタイ13：10-12を読んで、救い主が何と言われたかを生徒に読み取ってもらおう。

- こう言われたとき、救い主は何を言おうとされたと思いますか。

主は、理解するために必要な霊的な備えのある人々に、真理を明らかにされることを説明する。信仰を持ち、従順な心で真理を受け人々には、続けてさらに多くの真理が与えられる。霊的な備えがなくて真理を受けることができない人々や、疑いの心で受ける人々は、すでに持っている真理をも徐々に失う。

象徴で語られる物語は、霊的な備えのある人々に象徴の意味が理解できるように、真理を提示する。備えのない人々には、意味を理解することができない。

救い主がこの地上におられた時代の人々の中には、たとえのメッセージを理解できた人々もいたが、多くは理解できなかった。これは今も同じである。義にかなった教会員の中にも、霊的な理解力には様々なレベルがある。

2ニーファイ28：30と教義と聖約42：49-50を読んでもらう。

- 神から真理を学ぶ方法について、この二つの聖句は何を教えているでしょうか。

霊的に進歩することによって、わたしたち全員が、福音、聖文、そして特に神殿で用いられる象徴の意味を理解できるレベルにまで到達できることを説明する。

「すべてのものにはそれに似たものがある。すべてのものは、現世にかかわるものも霊にかかわるものも、わたしのことを証するために創造され、造られている。」（モーセ6：63）

神殿では、最も神聖な、象徴に満ちた教えを受ける

この地上で最も神聖な象徴に満ちた教えは、神殿で受けることを説明する。神殿の教えと儀式を通して、わたしたちは象徴的な意味で永遠の命を受けるための旅に出る。この旅は、神のもとに入る象徴で終わる。登場する人物、物理的な環境、着る衣服、与えられるしるしなど、神殿で執り行われることすべてが象徴的である。これらの象徴を理解するときに、わたしたち一人一人が真理を認識し、霊的に成長する助けになる。

象徴の中には、直接的でその意味がすぐに理解できるものもある。神殿その

ものが象徴である。

「夜、全景を照明で彩られた神殿を見たことのある方はお分かりでしょうが、何と心を打つ光景でしょう。光を浴びて闇の中にそびえ立つ主の家は、霊の暗闇に深く沈んでいくこの世に立てられたイエス・キリストの福音の力と靈感の象徴です。」（『聖なる神殿に参入する備え』10）

神殿衣もまた象徴である。わたしたちは神殿に参入するとき、普段の服を脱いで、白い神殿衣に着替える。神殿衣は、清さの象徴である。ジェームズ・E・ファウスト管長は次のように語っている。

「神殿における礼拝の基本は、『神は人をかたよりみない』という原則です〔使徒10：34〕。聖なる神殿の中では、役職や富、地位、人種、学歴などで区別されることはありません。皆が白い服を着ます。皆が同じ教えを受け、同じ聖約と約束を交わし、求められるふさわしさを保てば、皆が同じ天からの永遠の祝福にあずかるのです。創造主の御前みまへにあつてすべての人が平等です。」（『永遠、わたしたちの行く末』『聖徒の道』1997年7月号、23）

神殿の儀式を受け、神と聖約を交わす会員は、生涯、特別な服（下着）を着続ける。以下の引用を読む。

「ガーメントは、神聖な聖約を受けたしるしです。また、ガーメントを着る者に慎みを教え、盾となり守りとなります。……体を覆うガーメントは、視覚と触覚によって、わたしたちが交わした聖約を思い起こさせてくれます。誘惑に直面したとき、ガーメントは多くの教会員を守る盾となります。またそのほか様々な状況にあつてガーメントは神の律法と、その中にある道徳的標準に対するわたしたちの深い畏敬いけいの念を象徴しています。」（『聖なる神殿に参入する備え』20、23）

割り当ててあつた生徒に、ある中央幹部が教会員でない従軍聖職者に神殿のガーメントの目的をどう説明したかを、かいつまんで話してもらおう（『聖なる神殿に参入する備え』21、23参照）。

神殿の儀式は、ほとんどすべてが象徴であることを説明する。そのために、神殿でのエンダウメントの象徴性を理解できるように参入者はできるだけ霊的な感受性を高められるように備える必要がある。

- 神殿で霊的な感受性を弱めるものに、何が考えられるでしょうか。

生徒たちは次のような答えを挙げるかもしれない。

1. ふさわしさに欠ける場合。心から悔い改めず、謙遜けんそんと祈りをもって神殿参入に備えなかった人にとって、象徴は生きたものにならず、その意味も隠されてしまう。
2. 信仰に欠ける場合。イエス・キリストと神殿の儀式を信じない人は、神殿でのエンダウメントを理解するのに必要な聖霊からの靈感を受けることができないかもしれない。
3. 儀式の外面的な進行に気を取られすぎて、象徴が持つ力強い教えを見逃してしまう場合。

- 神殿で御霊を受けやすくなるためにどのような準備ができるでしょうか。

まとめ

初めて神殿に参入する人は、多くの新しい事柄を学び、主の御霊の力を感ずることができる。この点を指摘する。生徒たちに、神殿での経験に向けて霊的に備えるように勧める。また、1回の参入だけでは示されるすべてのものは理解できないことを指摘する。できるだけ頻繁に神殿に参入しなければならない。継続的に学ぶことによって霊的な感覚を新たにしていくためである。

閉会の祈りをしてもらおう。



聖なる神殿に参入する備え

「また、わたしの民が主の名によってわたしに一つの家を建て、それが汚されないように、何であろうと清くないものがそこに入るのを許さなければ、わたしの栄光はそのうえにとどまるであろう。」
(教義と聖約97：15)

目的

生徒たちがふさわしい状態で神殿に参入できるように備える。

レッスンの提示

開会の祈りをしてもらおう。

質問があるかどうか生徒たちに尋ねる。御霊の導きに従い、必要なだけの時間を取ってできるかぎりすべての質問に答える。神殿の業の中には神殿外で話し合ってはならない事柄もあることに留意する。

一人一人が神殿参入に備えなければならない

神殿の祝福を余すところなく受けられるように準備をする責任は、その人自身にあることを説明する。

以下の5つの概念について簡単に話し合う。各概念は、神殿参入に備える方法を示している。一つ一つ黒板に書き出しながら話し合ってもよい。

1. ふさわしくなければならない。

教義と聖約97：15-17を読んでもらう。

• ふさわしい状態で神殿に参入することの大切さについて、この聖句は何を教えているでしょう。

ハンター大管長は、「神殿建設の準備をしていたカートランドの聖徒たちに、主は、預言者ジョセフ・スミスを通して勧告を与えられ……その中に挙げられている態度や義にかなった行動について」考えてみるように教えた（「教会員の大きいなる象徴」『聖徒の道』1994年11月号、3参照）。

この勧告は教義と聖約88：119にある。この聖句を読んでもらう。

ハンター大管長の次の質問も考えてもらおう。「これらの態度や行動は、わたしたちが『こうになりたい』と望み求めている姿勢と一致しているでしょうか。」（「教会員の大きいなる象徴」『聖徒の道』1994年11月号、3）

2. 謙遜けんそんでなければならない。

人は皆、高い所から教えを受けたいと望み、謙遜になって神殿に参入するべきである。

• 神殿で働き、学ぶ際に謙遜さがそれほど大切とされるのは、なぜでしょうか。

教義と聖約136：32-33を読んでもらう。

• 謙遜さの重要性について、この聖句は何を教えてくださいか。神殿に初めて参入するとき、この教えをどのように応用できるでしょうか。

「あなたがた自らを組織しなさい。すべての必要なものを用意しなさい。そして、一つの家、すなわち祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、栄光の家、秩序の家、神の家を建てなさい。」(教義と聖約 88 : 119)

3. 永遠の命を得るために、神殿の儀式と聖約を受けることが必要不可欠である。だれもがこれを理解しなければならない。

ハロルド・B・リー大管長はこう言っている。「神殿の儀式は、神とキリストの住まれる日の栄えの王国で昇栄する機会を逸することがないように、賢明な天の御父がわたしたちのために人生の道案内、守りとして計画され、この末日に啓示されたものである。」(“Enter a Holy Temple” *Improvement Era*, 1967年6月号, 144)

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように述べている。「これらの祝福は、わたしたちが忠実であれば、主の高価な真珠を確約する。なぜなら、これらの祝福は現世で得られる最も大きな祝福だからである。教会に加入することはすばらしいことである。しかし、主の宮で聖約を交わし、主の宮以外で今日地上のほかのいかなる所でも与えられない鍵と権能を受けなければ、昇栄を得ることはできない。」(『救いの教義』ブルース・R・マッコンキー編, 第2巻, 232)

4. 神殿のガーマントを着用することの大切さを理解する必要がある。

神殿の儀式を受けた人は、神聖な神権のガーマントを着る特権を頂くことを説明する。教会の声明の中で大管長会はこう言っている。

「神殿の中でガーマントを着用した教会員は、生涯それを身に着けるといふ聖約を交わしています。この聖約は、昼夜を問わずガーマントを肌着として身に着けるといふ意味に解釈されています。……

基本原則は、ガーマントを常に身に着け、やむを得ない場合以外は脱がない、というものです。……ガーマントを脱ぐ必要のある場合でも、……できるだけ早目に再び着用してください。

この聖約の中には身体を適度に覆うという慎みの原則が含まれており、身に着ける衣服はすべてこの標準に合ったものでなければなりません。神殿で聖約を交わした教会員は、主と交わした神聖な聖約のしるしとして、また、誘惑と悪から身を守る物としてガーマントを身に着けています。ガーマントをどのように着用するかにより、各自がどれほど強く救い主に従いたいという気持ちを抱いているかが分かります。」(大管長会からの手紙, 1988年10月10日付)

5. 個人的で、神聖な礼拝のために備えなければならない。

神殿では、儀式中にも、儀式の前後にも、瞑想する機会や、天の御父とイエス・キリストにいつそう近づく機会がある。だれでも、疑問に出会ったときには答えを見つけたい、重荷を負ったときにはその重荷を軽くしたい、問題に直面したときにはその問題を解決したいと願う。そんなとき、この世から離れて天の御父と心を通わせる場所として、神殿が与えられていることに感謝している人たちが大勢いる。そして多くの人々が神殿で答えや平安、喜びを見いだしている。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、こう述べている。「皆さんには問題や気がかり、心配事がありますか。心に平安を求めていますか。主と親しく交わり、主の御心を静かに考える機会を必要としていませんか。だとしたら、

主の宮に入り、そこで主の御霊を感じ、主と交わってください。そうすれば、ほかのどこでも見いだせないような平安が得られることでしょう。それを活用してください。何とすばらしい祝福でしょうか。」(「神殿の祝福を享受する」『リアホナ』2002年12月号, 33)

神殿では、特別な必要を抱えた人々の名前を提出することができる。神殿参入者がこれらの人々のために一致して信仰と祈りを行役できるようにするためである。

初めて神殿に参入するときの特別な準備

初めての神殿参入に必要な準備をすべて整え、霊的に高められる経験にするには、次に挙げる情報が役に立つだろう。生徒たちの状況に当てはまるものについて話し合う。

1. 神殿推薦状。神殿推薦状を受ける。神殿には有効な推薦状を持った人しか入れないので、必ず神殿に携帯するようにする。ふさわしくさえあれば、この推薦状で2年間、何度でも、教会のどの神殿にも参入することができる。神殿推薦状の更新には、毎年、ビショップリックの一員または支部会長、およびステーク会長会の一員または伝道部会長の面接を受けなければならない。
2. 参入の計画と予約。エンダウメントまたは結び固めの儀式を受けるため、神殿へ行く前に電話で予約を入れる。何時に神殿に到着したらよいか、どのくらい神殿内にいることになるか、何を持参すべきかを調べておく。必要であれば、通訳の助けを依頼する。
3. 神殿までの行程の計画。神殿から遠く離れて住んでいる場合は、次のことを考慮に入れるべきである。
 - 旅行手段、宿泊、食事の手配を事前にする。できるなら、グループで旅行するとよいかもしい。
 - 必要なら、神殿がある国の通貨に両替する。
 - すべての経費を負担するに足る金額を持参する。ガーマントを余分に買ったり、神殿衣を借りたり、宿泊費や旅費を支払ったりする必要があるかもしれない。(以下のことに留意する。多くの神殿では、神殿衣を借りることはできない。大管長会は、すべての会員が自分の神殿衣を購入するように勧めている。)
4. 衣服。日曜日の集會に集うときの服装をするよう計画する。女性はズボンを着用して神殿に行くべきでない。
5. 付き添い。初めて神殿に参入する人は皆、付き添いの人と一緒に参入すべきである。この付き添いは、すでに神殿に参入したことのある同性であれば、親戚でも友人でもよい。あるいは、神殿の職員がこの役を務めることもできる。また、神殿職員は、いつでも親切に案内役を務めてくれる。
6. 結び固め。もし、亡くなった先祖のために結び固めの儀式をしたいときは、記入済みの「家族の記録」を神殿に持参する。配偶者との結び固めを受ける場合、または子供との結び固めを受ける場合は、自分自身の「家族の記

録」を持参しなければならない。結婚をするのであれば、地元の法律による条件を満たすとともに、有効な結婚許可証を持って行かなければならない。(訳注——日本の場合は、「婚姻届」を役所に提出後、「受理証明書」を神殿に持参する。または、記載事項の事前確認を受けた「婚姻届」を、神殿が、式後に役所に提出する。いずれの場合も届け出と結婚式は同日でなければならない。) 生者と死者双方の神殿儀式を手配する方法に関する詳細な情報については、『神殿・家族歴史活動に関する会員のガイド』(34697 300)を入念に読む。参入しようと計画している神殿の神殿レコーダーに問い合わせることもできる。

7. 子供の世話。結び固めの儀式に加わる子供を神殿に同伴する場合は、結び固めの部屋で両親と一緒にいるまで、神殿の託児室で世話を受けることができる。儀式のための子供用の白い神殿衣は、神殿で用意されている。結び固めが終わったら、子供たちは再び託児室に戻って、両親を待つことになる。神殿では、結び固めに加わらない子供たちの世話はしていない。
8. 神殿のガーメント。神殿参入前に1, 2着の神殿のガーメントを買っておく必要がある。神殿に行く前にガーメントを着ることは許されない。エンダウメントを受けて、希望のサイズと布地を確認したうえで、追加購入できる。人によっては、最初のガーメントを一度洗ってサイズが合うのを確認してから、追加購入する人もいる。また、神殿のガーメントは教会が製造しているもので、教会配送センターを通して購入できる。
9. 神殿衣。大管長会は自分用の神殿衣を購入し使用するよう奨励している。神殿によっては、少額のレンタル料を支払って神殿衣を借りることができるが、自分用の神殿衣を所有し管理するのが望ましい。この神殿衣の購入場所についてはビショップまたは支部会長から情報を入手することができる。

神殿結婚の場合、姉妹たちはウェディングドレスを着用できるが、ドレスは白地に長袖で、デザインと布地が慎み深いものでなければならない。後ろに長く引いたすそや凝った装飾があってはならない。

まとめ

神殿の儀式の神聖さについて証する。神殿参入に備える生徒たちの姿を見て幸せな気持ちを感じていることを伝える。

閉会の祈りをしてもらう。

このレッスンが終わってから、可能な地域であれば、教師は生徒たちと一緒に神殿に参入すべきである。

「神殿の儀式は、…
…日の栄えの王国で
昇栄する機会を逸す
ることがないように、
賢明な天の御父が……
わたしたちのために
作られ……たものである。」
(ハロルド・B・リー大管長)



神殿参入の祝福を続けて受ける

「見よ、わたしはこの家を受け入れた。そして、わたしの名はここにあるであろう。わたしは憐れみをもってこの家でわたしの民にわたし自身を現すであろう。」
(教義と聖約110:7)

目的

生徒たちの初めての神殿参入の経験聞き、生涯にわたって神殿参入に備えられるように助ける。

準備

1. このレッスンを分かち合いの場とするように準備する。生徒のほとんどは、初めて神殿に参入した経験について話したいと思うはずである。
2. 生徒の一人に、教義と聖約110:1-10を読んで感想を分かち合うように割り当てる。
3. 生徒の一人に、『聖なる神殿に参入する備え』の23-24、26ページに提示されているエリヤに関する記述を要約するように割り当てる。
4. 初めての神殿参入で生じた質問に答えられるように、準備しておく。しかし、神殿内でなければ話せない質問や情報に言及してはならない。そのような質問がある場合は、もう一度一緒に神殿に参入する計画を立てるよう勧める。

レッスンの提示

開会の祈りをしてもらう。

質問があるかどうか生徒たちに尋ねる。主の御霊の導きに従い、必要なだけの時間を取って、できるかぎりすべての質問に答える。神殿の業の中には神殿外で話し合ってはならない事柄もあることに留意する。

神殿奉仕の喜びを維持する

- 神殿の中では、どのような気持ちがありましたか。

神殿に頻繁に参入する人には、神殿奉仕により、絶えず祝福が生活の中に注がれることを説明する。神殿での経験がまだ新鮮なうちに、印象を日記に書き留めるように勧める。自分の感じたことを書き留めるのはよいが、神殿の業の詳細、すなわち、神殿外で話し合ってはならない事柄については書き記すべきではないことを思い起こさせる。

- 生涯を通じて神殿奉仕の喜びを維持するには、何ができるでしょうか。

生徒たちの意見を黒板に書く。次の意見を提示してもよい。

1. 毎日神殿での経験について思い巡らす。

神殿に参入する頻度は、個人によって異なることを説明する。しかし、いったん神殿参入を果たして御霊を感じたからには、毎日、神殿の儀式について思

い巡らし、交わした聖約を思い起こすべきである。それによって、毎日、よりいっそう義にかなった思いを抱いて行動をする励みが得られる。

神殿について何もかも記憶することはできないが、参入の機会がある度に、できるだけ記憶に残すように心がけなければならない。加えて、神殿に関する聖文や預言者の言葉を研究する必要がある。一部は、このコースの中で学習済みである。

生徒の一人に、『聖なる神殿に参入する備え』の10-11ページに記された、次の言葉を要約するように頼んでもよい。

「最初の神殿参入のときには、神殿の儀式を十分に理解できないでしょう。ほんの一部しか、理解できないかもしれません。何度も、繰り返し参入してください。何度も学んでください。悩んでいたこと、……不可解に思われていたことが、徐々に分かってくるでしょう。……

エンダウメントのセッションに入るときや、結び固めの証人になるときは、眼前で繰り返されることの意味を深く考えてください。これからは、神殿に参入するときにはいつもこの点を心に留め、静かに祈りをもって諸儀式を反すうしてください。そうすれば、知識が増すことに気づくでしょう。

神殿参入の大きな意義の一つは、地球に関する神の目的が広大なパノラマとなって眼前に繰り返されることです。一度神殿に参入すれば（もちろん何度も参入すれば記憶を新たにできますが）、人生の中の出来事は、神の計画の中に仕組みられたものであることが分かります。自分がどこにいるのか、どのようなときに道を外れるのかを、すぐさま見て取ることができます。」

2. 神殿でのすべての礼拝の中心は、救い主、イエス・キリストであることを覚えておく。

聖文では、神殿建設の重要な理由は「人の子がその民に御自身を現す場所を得られる」ためであると教えている（教義109：5）。神殿の象徴や儀式は、わたしたちの注意を救い主に向ける助けとなる。

救い主が確かにカートランド神殿に御姿を現されたことを説明する。主がジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに御姿を現されたのは、神殿を御自身の宮として受け入れられるためであった。この訪れは、教義と聖約110：1-10に記録されている。割り当ててあった生徒に、この聖句を読んで感想を述べてもらおう。

• 神殿を建てて、そこに参入する人々に、救い主はどのような祝福を約束されたでしょうか。

家族は神殿で永遠に結び固められる

マラキ4：5-6を読んでもらう。

割り当ててあった生徒に、『聖なる神殿に参入する備え』の23-24、26にあるエリヤに関する記述を要約してもらう。

エリヤがこの地に戻り、神殿で家族を永遠に結び固める神権の鍵^{かぎ}を回復したことを説明する。

教義と聖約110：13-16を読んでもらう。続いて、生徒の一人に『聖なる神

殿に参入する備え」の28ページに記された次の引用を読んでもらう。

「こうして1836年4月3日、まさにその日から子孫の心はその先祖に向けられるようになりました。以後、教会で行われる諸儀式は一時的なものではなく、永遠に続くものとなりました。結び固めの力は、わたしたちとともにありました。どのような権威も、その効力においてこの力に勝るものはありません。この力は、生者に対しても死者に対しても正当な権威をもって行われるもろもろの儀式に、意義と永遠の効力を与えるものなのです。」（『聖なる神殿に参入する備え』28）

マタイ16：19に記録されているように、救い主は、使徒ペテロに結び固めの力について説明された。この聖句を読んでもらう。

教会の預言者である大管長が、現在もこれと同じ鍵を持っていることを説明する。「その神聖な結び固めの力は、現在教会にあります。この権能の重要性を知っている人々にとってこれほど神聖視しているものはありません。また、これほど身近に存在しているものはありません。この結び固めの力を保有している男性は、どの時代でも地上において比較的少数でした。しかし現在、どの神殿にも結び固めの力を授かっている兄弟たちがいます。この力は、預言者、聖見者、啓示者である末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長または大管長から委任された人々からしか授かることはできません。」（『聖なる神殿に参入する備え』26）

結び固めの儀式には、夫婦を互いに結び固める儀式と、両親と子供を結び固める儀式があることを説明する。両親が神殿で結び固められていれば、二人に生まれる子供たちは、両親の結び固めの聖約の下で生まれたことになり、両親に結び固められる必要はない。

- 神殿で受けた結び固めは、家族の日々の思いと行動に、どのような影響を与えていると思いますか。
- 神殿の結び固めによって、家族はどのような祝福が得られると思いますか。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語っている。「今だかつて、心から女性を愛した男性で、あるいは心から男性を愛した女性で、二人の関係が死を超えて続くようにと祈らなかった人がいたでしょうか。子供を亡くした親で、愛する子供が次の世でも自分たちのものになるという確信が欲しいと願わなかった親がいるでしょうか。永遠の命を信じる人であれば、天の神が、永遠の時の中に、人生で非常に貴重な特性であり、家族間で最も意義深く現れる、愛を与えられないと考える人はいないはずで、論理的にも家族関係は死を超えて続くものである点に疑問の余地はありません。人の心がそれを何よりも望んでいるのです。そして、天の神がそれを確保できる方法を啓示によって教えてくださったのです。それが、主の宮で行われる神聖な儀式です。」（“Why These Temples” *Temples of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints* [1988年], 4）

神殿は亡くなった人々に奉仕する機会を与えてくれる

オバデア1：21を読んでもらう。

預言者ジョセフ・スミスは、どうしたら教会員たちがシオン山の救い手になれるか説明している。

「どうしたら〔聖徒たちが〕シオン山の救い手になれるだろうか。それは、神殿を建ててバプテスマフォントを造り、この世を去ったすべての先祖の身代わりに進み出て、バプテスマ、確認、洗い清め、油注ぎ、神権の聖任の儀式を経て、結び固めの力をその頭に受けることによって、第一の復活にあずかり、ともに栄光の座に昇栄できるよう、彼らを贖うことである。父の心を子らに、子らの心を父に結びつける鎖はここにある。そして、それによってエリヤの使命が全うされる。」(History of the Church, 第6巻, 184)

「神殿で行われるこの身代わりの儀式は、主が身をもって示された無私の愛と犠牲の精神で執行されなければなりません。」(トーマス・S・モンソン管長)

救いの計画の一端として天の御父は、福音の救いの儀式を受けることなく亡くなった人々が、それらの儀式を受けられる道を備えられたことを説明する。霊界にいる人々には福音を聞く機会が与えられている。彼らは霊界で福音を受け入れることはできるが、霊界では自分のために福音の儀式を受けることはできない。主はわたしたちに、彼らの身代わりとして聖なる神殿でその儀式を受けられるように命じられた。わたしたちは自分自身の先祖に代わって儀式を受けられるよう、家族歴史活動に特別な努力を傾けなければならない。

神殿内で行われる死者のための儀式には、バプテスマ、確認、神権への聖任、エンダウメント、夫婦・親子のそれぞれの結び固めがある。

わたしたちは死者のために働けるように、状況が許すかぎり頻繁に神殿に参入すべきである。わたしたちは奉仕する相手を祝福するだけでなく、自分の生活にも祝福をもたらすことができる。家族歴史活動の実施方法と先祖のための儀式執行方法に関する情報は『神殿・家族歴史活動に関する会員のガイド』(34697 300)に記載されている。

トーマス・S・モンソン管長はこう言っている。

「神殿のエンダウメントと結び固めの儀式に対する感謝の気持ちは、家族の結びつきを強め、亡くなった愛する家族にも同じ祝福を味わってほしいと家族一人一人が願うようになるはずです。……

神殿で行われるこの身代わりの儀式は、主が身をもって示された無私の愛と犠牲の精神で執行されなければなりません。主を忘れさえなければ、このきわめて重要な業におけるわたしたち個人の責任を果たしやすくなるはずで。聖なる宮を仰ぎ見る度に、自分のためだけでなく、死者のためにも、その内側にある永遠の機会について思い出せますように。」(Pathways to Perfection [1973年], 206-207)

まとめ

神殿に参入することで、人々に奉仕し、いつまでも霊的な視野を広げていけることを強調する。以下の引用を読む。

「神殿の業と、それを支える系図探求の仕事ほど、この教会にとって大きな守りとなるものはありません。またいかなる業もこの御業ほどに、人の霊を磨

き、人に力を与えることはできません。加えて、これほど高い標準が要求される業もありません。……

神殿の儀式に関する啓示を受け入れるなら、そして、一日延ばしにしたり言い訳をしたりせずに主の契約の下に入るなら、主はわたしたちを守ってくださいでしょう。わたしたちは人生に立ち向かうに十分な靈感を受けます。……

どうぞ神殿に参入してください。そして、祝福を受けてください。神殿の業は、聖なる御業なのです。」（『聖なる神殿に参入する備え』 38）

互いに証^{あかし}をしてレッスンを終わる。しばしば神殿に参入して、主の御霊によって学ぶように勧める。

クラスの生徒に、教会配送センターからビデオ『主の山』（53300 300）を入手し、家庭で視聴できることを伝えとよい。上映時間73分のこのビデオには、ソルトレーク神殿建設にまつわる物語が収められている。

生徒の一人に閉会の祈りをしてもらう。

